

奥佐田城(笹山城) (指定無) (津市白山町佐田味噌谷)

歴史 北畠の家臣・堀山次郎左衛門が築城した。天正4年(1576)、国司・北畠具教の後、弟・具親が旧北畠家臣を集め挽回を図った際、次郎左衛門はこれに応じ籠城して蒲生氏郷に反抗した。具親は和睦して開城し退却したが、江戸期には藤堂家の臣・笹山小次郎がこの城を守った。

道案内 近鉄大阪線「榊原温泉口駅」から西北へ約300m。国道165号で中ノ村地区の交差点を北へと県道28号に入ります。1km程北上して、近鉄大阪線の感想線路をくぐり、300m程北上した右手の山が城跡です。

城跡へは、線路をくぐってから250m程北上するとバス停があり、そこを右に入っていく道があります。この道に入ると、道路左手に民家が立ち並びます。130m程行くと民家が切れ突き当たりとなります。この一番東奥から山に入っていく道がありました。高さ1~2mの土塁と空堀が残り、曲輪の中に小さな曲輪がある形をしていました。

「公共交通で行く、お城めぐり旅」による

遺構：郭、土塁、空堀

規模：東西90m×南北140m

城主：堀山次郎左衛門(小倭・おやまと七人衆の一人)

標高：129m 比高 50m

歴史：天正4年(1576)具親蜂起の時、七人衆として堀山もこれに一味して城に立て籠り反乱した。織田信雄は滝川、柘植、長野に命じてこれを抑えた。天正12年(1584)小牧長久手の戦いの時、秀吉軍の蒲生勢によって口佐田城、南出城が落とされ、奥佐田城も包囲された。具親は安保大蔵少輔をつかわして和睦させ堀山は城を明け渡して退いた。

江戸期に蒲生家の家臣笹山小次郎がこの城を守っていたことから笹山城とも呼ばれる。

経緯：この地は小倭郷の中心地で小倭七人衆の主な人物が居住していた。(小倭郷=垣外、稲垣、上ノ村、南出、佐田など)阿坂城の支城群を構成し北畠家臣として格式が高かった。満賀野甚九郎(三ヶ野)、新(上ノ村)、臼杵与四郎(谷杣)、吉懸三太夫(南出)、堀山式部少輔(奥佐田)、森長(口佐田)、稲垣実秀(稲垣)の性を名乗っていた

小倭七人衆を 稲垣氏 臼木氏 岡村氏 小泉氏 堀山氏 満賀野氏 吉懸氏とする説もある。

「山城遺産」による

